


第2章 目指すべき都市像

1 都市計画の基本理念

1-1 都市づくりの視点

第2次かほく市総合計画においては、まちづくりを進める4つの視点を挙げており、これらは都市づくり上も重要な視点として捉えられることから、本計画においてもこれらの視点を踏まえ、都市づくりの視点を以下の3つとして設定する。



都市づくりの 視点

1 安心していつまでも暮らせる住み良いまち ～安全・安心・定住～

- 健康・福祉サービスの充実を図り、子どもからお年寄りまであらゆる年齢層の人が健康で、安心して暮らせる福祉社会の形成を目指す。
- あらゆる災害などに備え、市民の安全を守るため、防災・減災・防犯による地域づくりを目指す。
- 都市基盤の充実や、“若者マイホーム取得奨励金”及び“新婚さん住まい応援事業”などにより定住を促進し、豊かさとうるおい、利便性・快適性を感じながら、いきいきとした生活をおくることができる生活環境の創出を目指す。

2 人・まち・自然を大切に共生のまち ～保全・育成～

- 恵まれた自然環境との調和を図り、地域固有の歴史、文化を活かしながら、住民と行政が協働で、より豊かな個性の創造を目指す。
- 豊かな人間性を育む学校教育、社会教育を推進し、人づくりから地域づくりを目指す。

3 にぎわいと活力にあふれる創造のまち ～発展・活力・交流～

- 地域が一丸となって既存産業の再生・担い手育成、商工業の充実、新規産業の創造・育成・支援、観光産業の育成に取り組み、安定した雇用を生み出し続けることにより、若年層をはじめ、多様な世代が定住する魅力と活力あるまちづくりを目指す。
- 豊かな自然などの地域資源を活用し、地域内及び広域圏の活発な交流・連携を行い、住民が積極的にまちづくりに参加できる地域社会の形成を目指す。
- 各種施策の立案にあたっては、PPP/PFIの導入を段階的に検討し、官民連携での施策の実現を目指す。

2 将来都市像

2-1 都市計画の目標

都市づくりの視点を実現するため、本市の都市計画の目標を次のように定める。

豊かな自然・文化と人が織りなす、“にぎわい・魅力・やすらぎ”のあふれるまち かほく

<都市計画の目標の考え方>

- ・第2次かほく市総合計画では、「海とみどりに抱かれた、にぎわいあふれるまち」を基本理念として掲げており、この考え方を念頭に、恵まれた自然の下で、さらなる賑わいと発展を目指していくものである。
- ・「**豊かな自然・文化と人**」とは、本市が有するまちづくりの貴重な資源（豊かな自然・文化）と人財であり、有効に活用していくことが非常に重要であることから、将来都市像を示す上でのキーワードとなる。
- ・「**織りなす**」とは、本市の地場産業である繊維業に例え、まちづくりの資源・財産（豊かな自然、文化、人）を織物のように融和・調和させることによって、一体的なまちづくりを推進していくことを表現している。
- ・「**にぎわい・魅力・やすらぎ**」とは、まちづくりの資源・財産が融和・調和することによって広域的な連携・交流を促し、観光や産業の振興、地域の個性の育成、人や自然に優しいまちづくりを推進し、さらに発展させていくことを表現している。

2-2 将来人口

「かほく市人口ビジョン」では、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を背景として、本市における人口等の現状分析および将来推計を行っている。

かほく市人口ビジョンで示す将来目標人口は、2060年（平成72年）の将来目標人口を約28,400人と設定しており、中間目標として2040年（平成52年）で約31,600人を目指すこととしている。

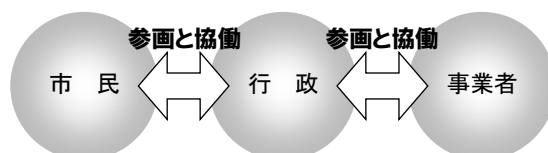
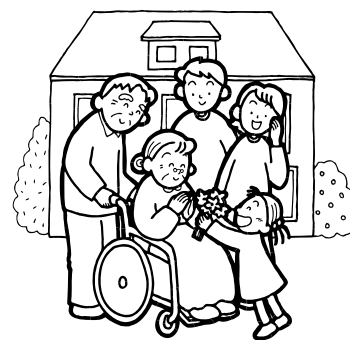
また、かほく市人口ビジョンでは、本計画の目標年次（平成48年）の直近である2035年（平成47年）の目標人口を推計しており、この結果を踏まえ、平成48年における総人口を32,400人と設定する。

2-3 都市づくりの基本方向

第2次かほく市総合計画、かほく市創生総合戦略推進計画・かほく市人口ビジョン、石川県の都市計画に関する基本的な方針等上位関連計画との整合を念頭に、都市計画の目標の具現化に向けた都市づくりの基本方向を次のように定める。

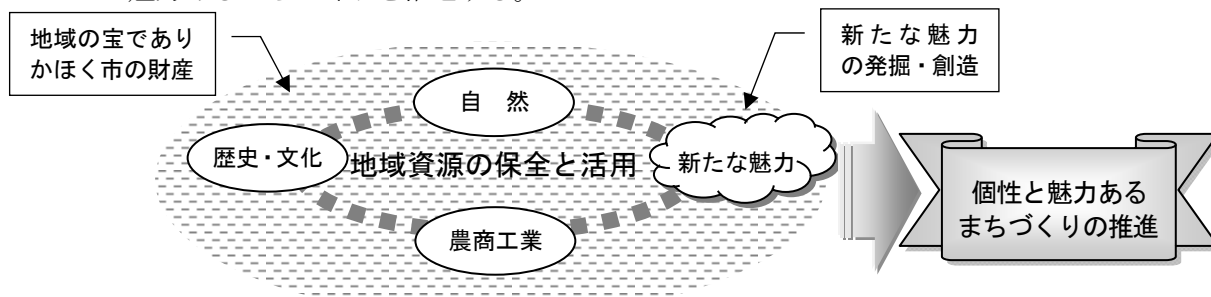
方向1 健やかに、安心して暮らせる、協働によるまちづくり

- ・子どもたちや高齢者が健康で、快適に暮らせるよう、バリアフリーにも配慮したまちづくりを推進する。
- ・市民の生命や財産を守るよう、災害に強いまちづくりを推進する。
- ・市民や事業者が参画しながら、行政とともに協働でまちづくりを推進する。



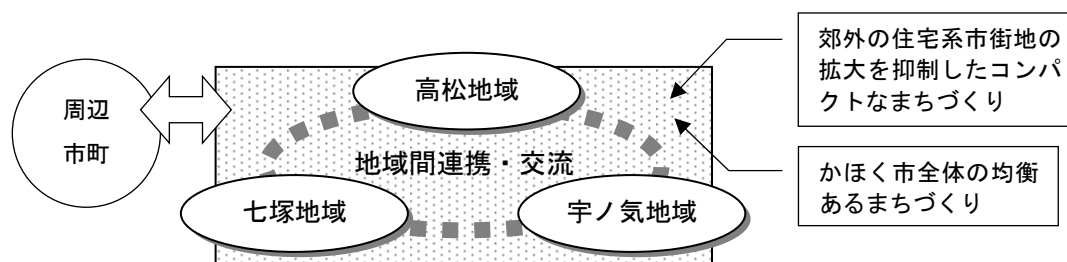
方向2 豊かな地域資源を活かした個性と魅力あるまちづくり

- ・豊かな自然・歴史・文化等の地域資源を保全、活用するとともに、農商工業等の産業活動を通し、安定した雇用と活力あるまちづくりを推進する。
- ・魅力を発掘、創造、発信しながら、定住促進に向けた多様な人々を惹きつける個性と魅力あるまちづくりを推進する。



方向3 連携と交流による一体的なまちづくり

- ・郊外の住宅系市街地の拡大を抑制し、コンパクトな市街地の形成を目指す。
- ・各地域が連携・交流することにより、一体感あるかほく市の創造と、均衡あるまちづくりを推進する。
- ・金沢市などの周辺市町との広域的な連携・交流によるまちづくりを推進する。



2-4 将来都市構造

かほく市の将来都市構造を次のように定める。

将来都市構造は、都市計画の目標の実現に向けた取り組みを進めるため、本市の自然・地形的特性をベースに都市構造の骨格を成す「ゾーン」、及び広域的な連携・交流を形成・強化する交通ネットワークによる「軸」を位置づける。

【将来都市構造における総合計画との整合】

総合計画では、基本計画において、総合的・計画的な土地利用の推進に向け、市域にゾーン及び軸を設定し、土地利用及びまちづくりの方向性を示しており、これと整合したゾーン設定を行う。

本計画では、総合計画における既成市街地ゾーン、交流ゾーンについて、「にぎわい創出エリア」を設定し、今後の新たなにぎわいを担うエリアとして位置づけた。

さらに、各ゾーンのより具体的な方向性については、土地利用方針や都市施設方針でそれぞれ述べることとし、ここでは大まかなゾーンの位置付けと方向性を示した。

総合計画 将来都市構造における各ゾーンの考え方

【既成市街地ゾーン】

各地域の既成市街地は、生活道路・生活基盤の整備促進や産業振興、商業活性化等を進めるとともに、既存施設の有効活用を図る。

【交流ゾーン（北部・南部交流ゾーン）】

北部交流ゾーンは、県立看護大インターチェンジや道の駅高松を広域交流の結節点として、石川県立看護大学を中心に「健康・福祉」「産業振興」「観光振興」をテーマに、また、学園台への住宅立地の充実を進めるなど、市内外の交流促進を図る。

南部交流ゾーンは、白尾インターチェンジを広域交流の結節点として、西田幾多郎記念哲学館や海と渚の博物館を中心に、「歴史」「文化」をテーマにした市内外の交流を図る。また、既存大型商業施設を中心とした、さらなる商業機能の充実や利便性向上、交流機能の集積・強化を図る。

【自然活用ゾーン】

本市の重要かつ貴重な自然環境を有する地域として、今後とも積極的な自然環境の保全とともに、自然とふれあい、心と身体の健康を増進させる場として活用する。

【親自然・健康ゾーン】

大規模な公園やスポーツ施設が存在し、かつ自然が豊富な丘陵地は、今後もスポーツ・レクリエーションの振興とともに、自然を親しむ地域として活用する。

【環境保全ゾーン】

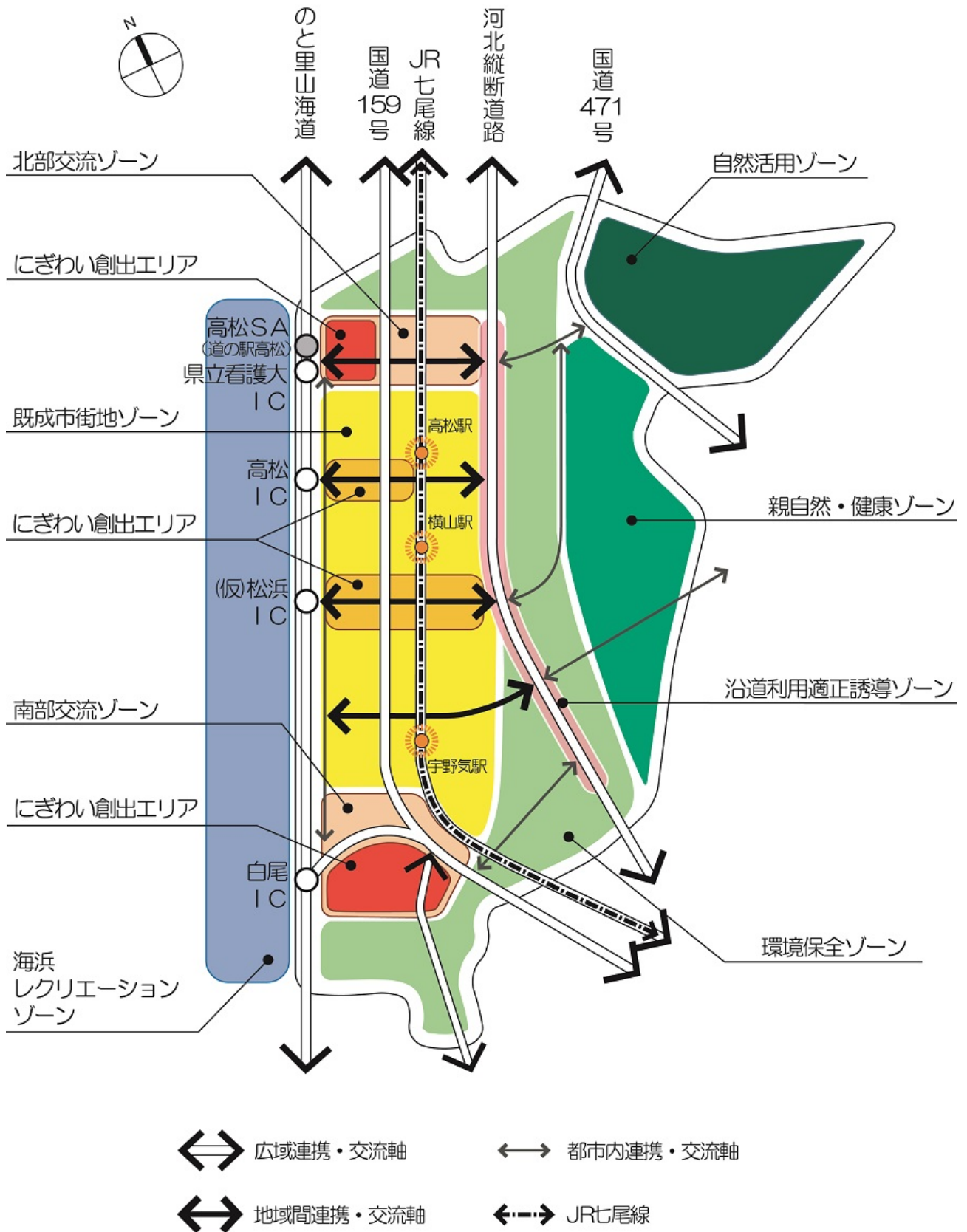
工場などが点在する既成市街地の周辺地域においては、田園・集落景観や環境面に配慮しつつ、環境保全型農業（注）や工場立地を推進する。また、広域交流軸等の沿線については、適正な沿道サービス施設の立地誘導を図る。

【海浜レクリエーションゾーン】

広域交流軸（のと里山海道）とのアクセス性が高く、自然資源および観光資源が豊富な海岸沿いの地域は、海に親しむ地域として、海岸沿いの景観保全や活用、海と渚の博物館などの観光資源のさらなる充実を図る。

（注）環境保全型農業：可能な限り環境に負荷を与えない（または少ない）農業、農法。

将来都市構造



将来都市構造の概要

| 都市構造区分 | | 都市構造の方針 | |
|--------|---------------|---|---|
| ゾーン | 既成市街地ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・良好な住環境の創造に向け、生活基盤の整備促進、細街路の整備などにより、安全・安心な都市基盤づくりを進める。 ・既成市街地周辺では、新たな宅地開発に対応した土地利用規制の導入、地域住民相互の協定づくりなど、適正な土地利用誘導を進める。 ・市街地内の緑の確保・保全に努め、うるおいのあるまちづくりを目指す。 <p>【にぎわい創出エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西幹線道路の整備を推進し、東西幹線道路と国道159号との交差点周辺において、新たなにぎわいを創出するエリアとして位置づける。 | |
| | 交流ゾーン | 北部交流ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・県立看護大学を中心とした宅地、公園緑地等機能の充実など、交流の結節点としての機能強化を目指す。 <p>【にぎわい創出エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅高松を核とした、市北部の更なる賑わい拠点の機能強化を図る。 |
| | | 南部交流ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・石川県西田幾多郎記念哲学館やうみっこらんど七塚（海と渚の博物館）との連携強化などにより、金沢市との近接性等を活かした交流の結節点としての機能強化を目指す。 <p>【にぎわい創出エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存大型商業施設を中心とした、さらなる商業機能の充実や利便性向上、交流機能の集積・強化に向けた施設整備を図る。 |
| | 沿道利用適正誘導ゾーン | | <ul style="list-style-type: none"> ・各種の民間開発需要の受け皿となる地域産業活性化のための新たな軸として、河北縦断道路の沿道地域における沿道サービス施設の立地誘導を図る。 ・当ゾーンの土地利用においては、周辺の自然・田園環境や景観保全に配慮し、屋外広告物規制等の適切な景観誘導手法の導入を検討する。 ・河北縦断道路沿道や背後地への無秩序な市街地の拡大を抑制するため、特定用途制限地域に基づき適切な土地利用誘導を図る。 |
| | 海浜レクリエーションゾーン | | <ul style="list-style-type: none"> ・雄大な海浜の自然環境の保全、海水浴場やうみっこらんど七塚等の観光資源の活用など、レクリエーション機能の強化・充実を図る。 |
| | 自然活用ゾーン | | <ul style="list-style-type: none"> ・本市の重要かつ貴重な自然環境として、積極的な保全を図り、レクリエーションの場として活用を図る。 |
| | 親自然・健康ゾーン | | <ul style="list-style-type: none"> ・固有の景観や生態系の保全、創造を図りながら、公園やゴルフ場等の施設を活用したスポーツ・レクリエーションを振興する。 |
| | 環境保全ゾーン | | <ul style="list-style-type: none"> ・河北潟周辺の自然環境及び宇ノ気川、大谷川、大海川などの河川沿いに広がる田園環境の保全に配慮し、環境負荷の少ない農業の推進など、集落環境の維持・保全を図る。 ・ゾーン内の公園・緑地施設や工業拠点等は、個々の機能強化とともに周辺の自然環境との共生に配慮する。 |

| 都市構造区分 | | 都市構造の方針 |
|--------|-----------|--|
| 軸 | 広域連携・交流軸 | ・市内を縦断し、金沢都市圏や能登方面との交流において重要な役割を担う路線として、広域アクセス機能を活かした観光・産業の交流・連携を促進する。 |
| | 地域間連携・交流軸 | ・広域連携・交流軸との円滑な連絡を促し、商業、文化、行政及び観光等様々な機能を連携させる路線として、円滑な地域間の連携・交流を促進する。 |
| | 都市内連携・交流軸 | ・広域連携・交流軸や地域間連携・交流軸を補完するとともに、生活に密着した都市内の道路として、安全・安心な交通流を確保する。 |